

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0971300017		
法人名	医療法人 渡部医院		
事業所名	グループホーム和 秋冬ユニット		
所在地	栃木県那須塩原市大原間72-1		
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果市町村受理日	平成24年12月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成24年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者ができないことをどうするのかではなく、できること・分かることをどう活かしていくかを重要視して日々関わっている。 ・本人の声・思いを大切にしながら、うれしい、楽しい、おいしいと感じれるケアを実践している。そして寄り添った結果、入居者が癒される環境であってほしいと願っている。 ・本人の夢の実現の支援も行っており、場所がどこであっても行きたい場所へ旅行などをして、共に喜び、共に涙し、共に感動しあいたい。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(外部評価結果は春夏ユニットのシートに記載)

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で生活を継続することの支援」という理念があり、他の理念とともに事業所内の数ヶ所に掲示し、スタッフは常に意識して入居者と関わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や毎日のスーパーへの買い物時、近隣住民の人と会った際は挨拶をし、時々会話をしている。又、地域の盆踊り等、催し物に参加して交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他団体のいくつかの認知症に関する広報誌等の原稿の協力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で運営推進会議を開催しており、会議では評価への取り組みを含め、入居者・家族等のさまざまな意見を参考にサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と直接または、電話や電子メールにて適宜さまざまな情報や取り組みを伝え、共有している。運営推進会議・地域密着型事業者連絡協議会・那須塩原市ケアマネ連絡協議会等においても、随時連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルに禁止の対象となる具体的な行為が記載されており、スタッフはその行為を正しく理解している。又、玄関の施錠を含め今までに身体拘束に至ったケースはない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全国グループホーム協会権利擁護パンフレットを事務所内に掲示し、意識の啓発と虐待防止に努めているが、高齢者虐待防止関連法に関する研修の機会が、今年はなかった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や数名の職員は、すでに権利擁護に関する研修に参加し理解を深めている。現在制度を利用している入居者はいないが、必要があれば随時検討する用意がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は、管理者が対応しており、一つひとつ時間をかけて分かりやすく説明して納得の上、契約を結んでいる。又、料金改正・加算改正等の変更時も説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を設置したり、外部の苦情受付機関を紹介し意見を表せる機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日常においてスタッフの意見を聞く努力をしている。又、全体会議やユニット会議等で、スタッフが意見や提案を言える機会がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告用人事評価シートを活用してボーナスが査定されており、各自の努力や意識が評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内に認知症介護実践リーダー研修3名、認知症介護実践者研修9名が、すでに研修を終了している。更に認知症介護指導者養成研修も1名終了している。又、スキルアップを図るためのテキストや参考書を休憩室に整備し、内部研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のケアマネジャー連絡協議会に管理者や計画作成担当者が参加したり、地域密着型サービス事業者連絡会議等で交流する機会があり、さまざまな情報交換や連携を図る取り組みをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人が安心して入居できるように、必要があれば何度でも面会し本人のさまざまな言動を受け止め初期の段階で信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のみならず、家族の希望や意向等も十分聞き、必要であれば電話だけではなく、自宅へも出向いて相談の機会を設けている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に見極め、必要に応じて各種機関と連携している。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、得意な事を中心に、日々学んでおり、介護する立場ではなく、共に生活をしていくという環境である。忙しく働いているスタッフを気遣い、肩もみを自らしてくれる入居者もあり、逆に支援を受けている場面もしばしばある。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	納涼祭や秋桜祭等、家族参加の行事があり、共に喜びを味わうことができるように努めている。又、家族との外出や外泊の機会も徐々に増えてきている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出やお墓参り等、現在のところ家族が対応している。他に、温泉や美容室等、馴染みの場所があればいつでも行ける用意はある。		
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係が継続できるよう支援している。入居者間のトラブルがあった時には、その原因を把握し必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の老人保健施設秋桜の家に転居となった方には、頻繁に面会に行っている。又、亡くなられた方においては、葬儀に出席し初盆時には自宅へ行って関係性を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや意向は、日々の生活の会話の中から引き出し、把握に努めている。重度の認知症があり、把握が困難な場合は、これまでの生活歴や家族等からの情報を参考に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、管理者が家族、本人に聞き取りをして記録している。又、家族にはセンター方式の記入を協力して頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできる力、分かる力を暮らしの中で発見し、その力を発揮できるよう生活に取り入れ、自立支援を念頭に置きながら総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントツールとして、センター方式を活用しており、本人の声、本人の思いを十分反映して、その人にとって何が大切なのかを具体的に明らかにした介護計画を作成している。家族等に思い、意向も参考に十分話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるために、入居者一人ひとりの様子や変化等を具体的に、ケアプラン内・ケアプラン外に分けて記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年から、押し花教室を開催しており、外部講師が来て指導して頂いている。4名の入居者が参加されており、本人や家族も喜ばれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの活用や、消防職員を含めた定期的な消防訓練を実施しているが、地域資源を積極的に取り入れているとはいえない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関を確認している。その医療機関において、定期受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、入居者の体調面で、些細なことであっても、随時看護師に報告している。又、適切な受診や看護を受けられるように医療機関と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の承諾のうえ、医療機関に本人に関する情報提供を行い、継続したケアができるようにしている。又、入院中、病院へ行って手術後の様子を確認したり、退院に向けての相談を行い病院関係者と協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に移行中の方には施設内の会議などでも最前の方を話し合い、家族との相談を管理者が行っている。その都度、申し送り・ユニット会議などで状態の変化の報告や今後予測されることについて相談し対応に努めている。重度化に移行した方には、管理者が医療機関、福祉機関との連携を行ってきている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが整備されている。昨年であるが、救急救命士を呼んで、AEDの取り扱い方法や、心肺蘇生法の講習会を実施している。今後も定期的に行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルが整備されている。消防職員立ち合いのもと、定期的に避難訓練も実施している。地域との協力体制は築けているとはいえない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げている「個人が尊厳される生活」を大切にしている。言葉かけや接遇に関して、スタッフ1人ひとりが意識して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の生活歴やこれまでの暮らし等の情報から、スタッフはさまざまな言葉による引き出しを持っており、本人の意思が表出できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、本人のペースを大切にした支援を行っているが、勤務帯で手薄な時間に本人のペース・希望に添えない時がある。又、スタッフは業務中心にならないよう入居者一人ひとりを常に意識するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服は、自分で好きな物を選んで頂くよう援助している。理容・美容に関しては、本人の意向に応じて外出したり、経験のあるスタッフがカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりのできる力に応じて、食事に関する一連の作業、買い物、調理、食事、後片付けを一緒に行っている。又、食に関する個人の好みを把握し、献立に反映している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は入居者が食べたい物をスタッフと入居者で栄養バランスを考えながら作っている。又、個人の歯の状態等を考慮して、粗刻み・極刻み食の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はできていないが、1日2回、朝と夜に口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。又、それに合わせて定時にトイレ誘導を行って、オムツを使用している入居者でもできるだけトイレにて排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤等の薬だけに頼ることなく、便秘気味の方には、水分を多く摂取して頂いたり、腹部マッサージの実施や、リハビリ体操・散歩等の適度な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は基本的に15:30～21:00位だが、希望があれば深夜を除きいつでも入浴できる。又、入浴が好きな6名の入居者は、ほぼ毎日入浴できている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、活動と休息を交互に取り入れ、本人にとって自然なリズムで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の確認表があり、薬を出す時と内服の際にチェックしている。各入居者の服薬内容の説明表をファイリングし、確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動に生きがいを感じている方、散歩で気晴らしをされる方、得意の畑仕事や草むしりを行ってくださる方、それぞれに対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望がある入居者には、外食や買い物等対応しているが、希望がない入居者には外出の機会が少ないのが現状である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭を自己管理している入居者はいないが、希望や本人の能力に応じて随時検討し、所持できるよう支援する用意がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の希望がある場合、内容を聞きスタッフが代弁して対応することもあるが、直接本人が話をする入居者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることができるものを常々置くようにしている。フローアール・各居室に湿温計を設置し快適な生活環境になるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、テーブルの椅子、ソファ、こたつの3つのスペースがあり、入居者が自分の居場所をそのときどきの生活場面において選択している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人・家族と相談し、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等を持ち込むようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所を間違えないよう、居室のプレートがあり、名前をフルネームで記載している。トイレなどは、一般的なマークで表示し混乱を防いでいる。		